

第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<中学の部 優秀賞>

「もう一度、あの笑顔を」

佐藤光

「お姉ちゃん、ありがとう。」

大きな瞳からこぼれ落ちるビーズのような涙を、私よりもずっと小さな手のひらでぬぐいながらその子は言った。

「また来てね。」

あふれてくる涙を止められないままその女の子の頭をなでながら私は思った。“保育士”になろうと。

初めてサマーボランティアに参加したのは小学校六年生の時。小さい子が好きだった私に、担任の先生がすすめてくれたことがきっかけだった。サマーボランティアとは、鹿児島市福祉協会が主催している、保育園などの福祉施設で夏休みの数日間、ボランティアをするというものだ。初めのうちは緊張でガチガチになっていた私だったが、子供たちが私の手をひいて「遊ぼうよ」と笑顔で話かけてくれるうちに、緊張がとけて心があたたかくなったことを今でも覚えている。

四回目の参加だった今年は、ずっと子供たちの輪の中に入ることができた。何かを頼ってきてくれたり、ひまわりのような笑顔で私にだきついてくれたりする姿がとてもうれしく感じた。それと同時に、この時間がいつまでも続いてほしいという思いも強くなっていった。

ボランティアの最終日。みんなの前に立ち、頭の中でスローモーションのように数日間のことを思い出しながら、私はお礼の言葉を言った。頭を下げて顔をあげると、そこには子供たちの泣き顔があった。ポロポロと涙を流して「ありがとう」という姿を見ていると、胸があつくなくて涙があふれてきた。窓から空をながめ、この夏のことを忘れないように心にきざんだ。

私の夢は保育士だ。それはあの時から変わっていない。いつか、その夢を実現させたい。もう一度あの笑顔が見たいから。